



カゴノキ（鹿子木）＜クスノキ科・ハマビワ属＞

常緑高木。東西南部～沖縄の暖温帯に自生する。葉は枝先に集まってつき、薄い革質の長楕円形で7～13
葉、最大幅は葉先より。先端はやや突き出す程度で鈍い。9月にクスノキやゲッケイジュに似た淡黄色の
花を咲かせ、翌年の秋に赤く熟す。名の由来は、黒ずんだ平滑な樹皮が所々まだらに剥げ落ちて灰白色に
なり、鹿の子模様に見える事から。材は緻密で硬く器具材や床柱に用いられる。・・・▼鹿ヶ谷にあるクラ
フト部会の拠点のすぐそばに、見上げるばかりのカゴノキがある。一度見ると忘れられないほど印象に残
る木である。▼全世界で猛威を振るう新型コロナ。今年ほど印象に残る年もあるまい。だが、世の大変な
状況を横目に自然界は春を告げ、サクラは咲く。その姿に安堵しつつ今は前を向いて歩むしかない。来年
も必ずサクラは咲く。

～安佐南区山本町鹿ヶ谷 2020・4～